スクスク!クマガヤ

みんなでつくろう!



新市民体育館・新荒川公園
ワークショップ

日時｜2026年7月4日（土）14:00~17:00
場所｜男女共同参画推進センター「ハートピア」
会議室

※記録のため写真撮影を行います。NGの方はお近くのスタッフまでご連絡ください

1

開会あいさつ
・本日の進め方

本日の進め方

日時｜2026年7月4日（土）14:00～17:00
場所｜男女共同参画推進センター「ハートピア」会議室

１　開会あいさつ・本日の進め方

２　第3回の振り返り・検討状況説明

・第3回のワークショップの振り返り

・検討状況説明

３　グループワーク

４　発表・まとめ

５　事務連絡・閉会

ワークショップ開催の趣旨

熊谷市では、熊谷市立市民体育館や、隣接する荒川公園等を再整備するにあたり、整備の目的、求められる機能、整備計画の条件等を整理し、基本計画としてとりまとめることとしています。

昨年度から今年度にかけて、より多くの市民の声を反映するためワークショップを全4回行います。

本日はその4回目となります。

ワークショップ４回の流れ

各回、前半に「検討状況説明」として進捗共有を行い、後半のグループワークでご意見を伺う時間を設けます。4回でいただいたご意見を、「基本計画素案」に生かします。

11/8 第１回 再整備のあり方の共有

１）現地確認

２）検討状況説明

・WS開催の目的
・検討プロセス
・施設の現況
・調査結果報告

３）グループワーク

現地を見て、良いところ・気になるところ・こうなったらいいなと思うことを出し合う

1/31 第２回 空間イメージの共有

１）検討状況説明

・第１回振り返り
・コンセプト案
・モデル比較検討案の提示

２）グループワーク

モデル比較検討案について感想・意見を出し合う

3/28 第３回 空間イメージの共有

１）検討状況説明

・前回までの振り返り
・前回の質問回答
・事例紹介・追加意見収集報告

２）グループワーク

①第２回の意見をもとにまとめた価値に関する意見交換
②価値を踏まえてモデル比較検討案について意見交換

本日 第４回 基本計画素案の共有

１）検討状況説明

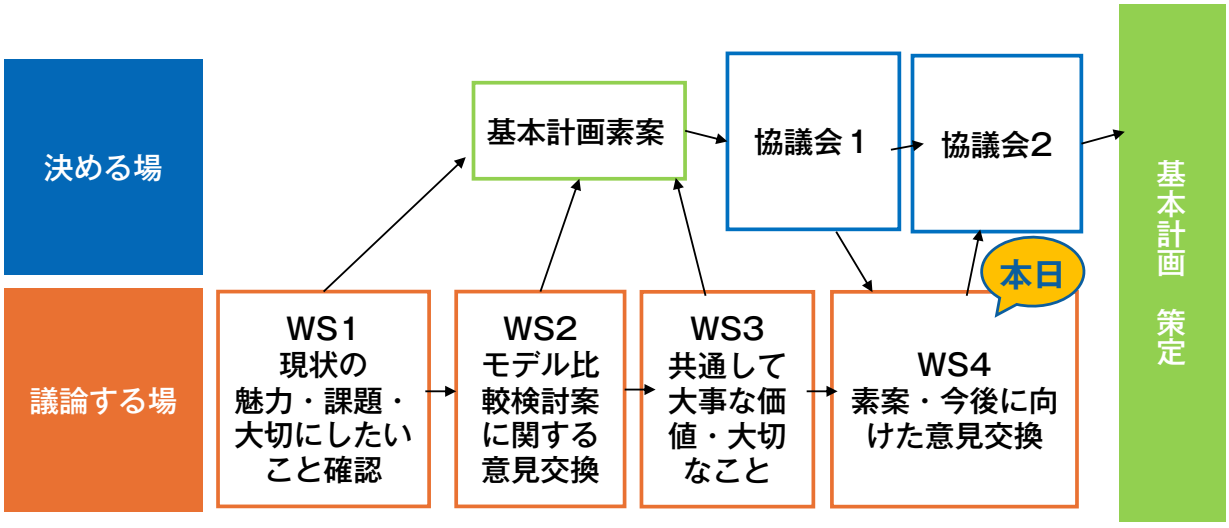
・基本計画素案の説明

２）グループワーク

①３つの価値から２つのモデルプランについて意見交換
②今後大切にしてほしいことについて意見交換

基本計画策定までの意見反映の流れ

ワークショップでいただいたご意見をもとに、基本計画のコンセプトや目標等を検討します。第２回では、モデル比較検討案を議論の素材として、さまざまな論点が浮かび上がりました。第３回では、改めて、今後の具体的な検討で共通して大事な「価値」や、大切なことを意見交換しました。ワークショップ１～３の意見を参考に市が「基本計画素案」を作成し、学識経験者や市内の多様な立場の団体で構成される協議会に諮ります。今回は基本計画素案を確認し、今後に向けた議論を行います。その結果を協議会に報告し、基本計画を策定します。





第３回の振り返り・検討状況説明

１）第３回の振り返り

第３回ワークショップの目的と位置付け

第３回ワークショップでは、これまでの意見交換から導いた「３つの価値」それぞれの視点で荒川公園・市民体育館一体がどんな場を創造できるか意見交換を行いました。その後、生み出したいシーン、大切にしたいポイントを出し合いました。

第３回 開催概要

開催日時　2026年3月28日（土）
14:00~17:00
参加人数　36名
開催場所　ハートピア会議室

プログラム

1　開会あいさつ・本日の進め方
2　第２回の振り返り・検討状況説明
・第２回のワークショップの振り返り
・検討状況説明　その他
3　グループワーク
4　発表・まとめ



第3回ワークショップの様子



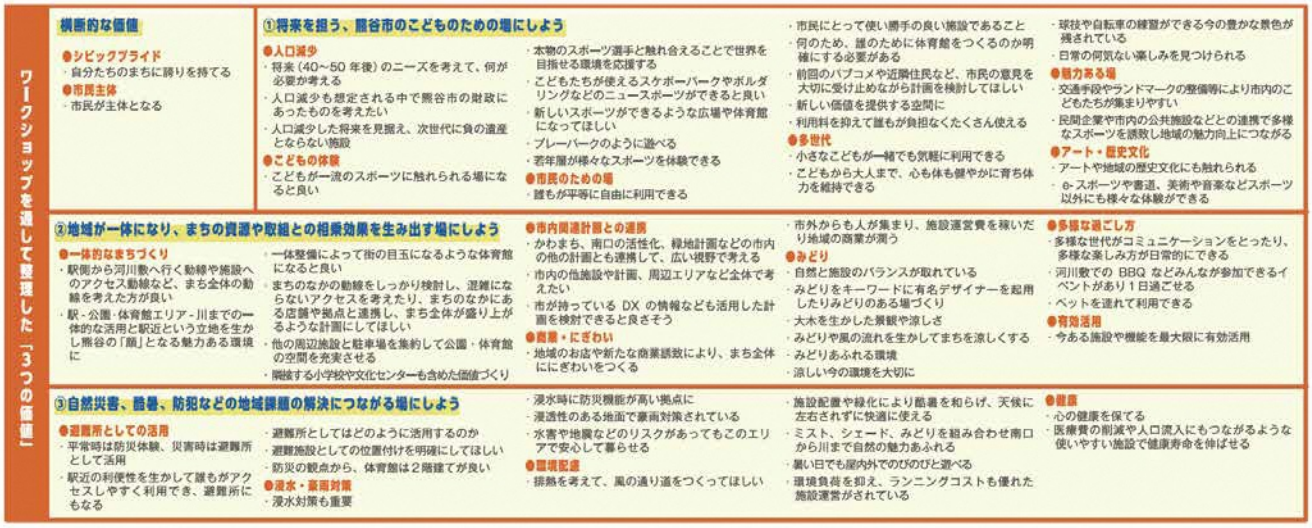






第３回ワークショップでのご意見のまとめ

３つの価値それぞれの視点で、どのような場が創造できるか、意見交換しました。横断的な価値として「自分たちのまちに誇りをもてる」ことや「市民が主体となる」といったご意見が寄せられました。また、３つの価値についても、人口減少を見据えた計画にすることや、こどもが多様な体験ができる場、一体的なまちづくりへのご意見や、避難所としての活用、酷暑への対策などについてのご意見が挙げられました。



第３回ワークショップでのご意見のまとめ

整備条件に関して大切にしたい考え方などについても意見交換をしました。共通する項目としては、スポーツに限らず様々な活動ができること、公園と体育館がシームレスに利用できること、健全な木を育てたり、風通しの良い空間へのご意見などが寄せられました。



２）検討状況説明

本日お伝えする内容

１．分科会の実施報告

２．基本計画素案（第1回協議会資料）

３．3つの価値から見た各案

1．分科会の実施報告

実施概要

市は再整備により「荒川公園周辺エリアのにぎわい創出」を目指していますが、**「にぎわい」と自分たちとの関係がよくわからないという方もいらっしゃることを想定し、地域経済の視点から“再整備とまちの関係性“について一緒に考える場として、本ワークショップの分科会を実施しました。**

［開催概要］
日時　第1回　4/18(土)14:00～16:00
　　第2回　6/7(日) 14:00～16:00
場所　ハートピア
講師　総務省 地域力創造アドバイザー
　　堀 哲郎 氏

第３回ワークショップ (3/28)
空間イメージの共有

ワークショップで意見が出た
体育館・公園の使い方を想定

第１回分科会 (4/18) 講演＋質疑
再整備が地域経済に与える影響を講師とともに紐解きます

第２回分科会 (6/7) 参加型ワーク＋意見交換
再整備がもたらす身近な暮らしの変化を一緒に考えます。

第４回ワークショップ (7/4)
再整備計画素案の共有、今後大切にしてほしいことについて意見交換

1．分科会の実施報告

講師：自己紹介



堀　哲郎

らしく株式会社・税理士/総務省 地域力創造アドバイザー

1981年　長野県駒ケ根市生まれ、さいたま市浦和在住

2005年　お笑い芸人で天下を取るために20代半ばで税理士資格を取得するが
　　自身の才能のなさに絶望し、諦めて税理士業界でキャリアを積み重ねる

2010年　29歳で税理士事務所を開業。相続、事業承継、創業支援に係る実績多数

2016年　故郷駒ケ根の衰退を目の当たりし、まちづくり支援を行う「らしく㈱」を創業

2019年　まちづくり事業と税理士業を融合させた取組みも本格的にスタート

2021年　浦和の古民家「青山茶舗」を改修し、オフィス入居(国の登録有形文化財)

2021年　地域経済循環を実数値で見える化する「みんなのまち財®」を提供開始

2023年　故郷の駒ケ根市にらしく社の支社を設置

2025年　総務省「地域力創造アドバイザー」に認定(令和7年度～)

2026年　まちづくり熊谷社より「人口減少期における熊谷市の地域経営」を発刊

1．分科会の実施報告

分科会での講演内容（抜粋）

■ 熊谷市の現状分析

・熊谷市における地域経済の強み

職住近接(域内＋近隣の就業率は約75％)、世帯収入と土地価格の関係、
地元資本の中小企業(3号法人)の存在、東京都市圏の影響が少ない立地。

・駅南口エリアの変容と人口増加

1970-1980年代に南口エリアは一気に住宅地・駐車場のエリアに変容。
体育館(1965)、文化センター(1979)の竣工＋経済成長・人口増・車社会化。

・年2,000人ペースの人口減と時間軸

2036年に現状から約2万人の人口減見込み、現人口は熊谷駅周辺エリア
に集中している状況であり、必然的に遊休ストックは増加する。

1．分科会の実施報告

分科会参加者の意見を踏まえると・・

■ 空き家や低利用地は小規模な事業を「緩やかに増やす」方向性へ

- **荒川公園周辺再整備後の周辺エリアの変容は遊休ストック活用が重要な論点になる。**
- **各施設＋周辺エリアは市民の日常利用と「暮らしの豊かさ」を生み出すものとして機能するポテンシャルがある。**

2．基本計画素案（1）再整備の目標とコンセプト

ワークショップ、アンケート等より、新しい体育館・公園の目指すべき方向性として「再整備の目標」の案を整理しました。

再整備の目標（案）

- 熊谷駅南エリアの新たな「顔」となり、多様な活動や交流を育む
- 市民とともに豊かな緑を継承し、日常の暮らしを豊かにする
- "する・みる・ささえる"で関われる、市民のスポーツ振興の拠点となる
- 誰もが安心して利用でき、災害時に地域の安全を支える

コンセプト（案）

案１：まちとかわをつなぎ　みんなが楽しめる　熊谷の新たな顔

案２：緑と水にかこまれた　熊谷が誇る　新たなスポーツ・文化・健康拠点

案３：市民とともに熊谷駅南エリアの新しい価値をうみだす場

2．基本計画素案
（2）市民意見から整理した利用シーン

本年度実施したアンケートとワークショップでいただいたご意見を基に、将来の体育館・公園の利用シーン（使い方）を下記のとおり整理しました。



2．基本計画素案（3）利用シーンで実現する施設・ゾーニングの考え方

将来の体育館・公園での「利用シーン」を実現するための施設イメージ、ゾーニングを整理しました。

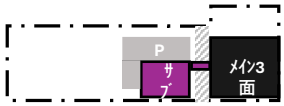
利用シーン	施設イメージ	ゾーニング
①豊かなみどりに囲まれ自然を感じる	芝生広場、木陰、ベンチ・デッキ	**憩いゾーン**：既存の緑を活かしながら多目的に使える芝生広場を配置
②誰もが気軽に体を動かす	健康遊具、多目的広場	**運動ゾーン**：屋外での気軽な運動ができる遊具やオープンスペースを配置
③スポーツ教室に日常的に参加する ④スポーツ大会に出場する・サポートする ⑤スポーツ・イベントをみて楽しむ	メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニング室、管理室、駐車場・駐輪場	**体育館ゾーン**：体育館が立地し、主に体育館利用者用向けの駐車場を配置
⑥居心地の良い空間でくつろぐ	共用空間、トイレ、授乳室	
	エントランス広場	**エントランスゾーン**：公園正面入口となり、体育館利用者の滞留空間としても活用
	屋根付広場	**遊びゾーン**：幼児から児童まで年齢に合わせた遊具や、水遊び場、屋内遊び場など多様な遊びニーズに対応し、遊び場の近くには見守り・休憩に使える屋根付広場を設置
⑦子どもがのびのびと遊ぶ	遊具、屋内遊び場	
	親水施設	**交流ゾーン**：季節の祭に加え日常イベントなど市民の交流を育む空間を継承
⑧季節感を楽しむ	キッチンカー等出店可能な広場、SL展示	
⑨みんなで災害に備える	防災倉庫、広場等	－（全体）

2．基本計画素案（4）市民意見等踏まえた市の考え

市民意見等を踏まえて、改めて計画検討における前提条件を以下の通り整理しました。

条件確認事項		市の考え	アンケート・WSの意見	事例調査	事業者ヒアリング
防災の考え方		・観客席部分を活用できることから、アリーナは１階とする。			アリーナを2階とするのが防災上望ましい反面、物資拠点にはしずらい
観客席数		・一定規模の大会の誘致を考慮し、固定席1,700席～2,000席とする。 ・2,000席がより望ましい。		観客席数は3,000席程度が妥当	観客席数3,000~4,000、固定席1,500~2,000が現実的。固定席を多くすると日常運営が増えるため仮設席でピーク対応が合理的
アリーナ規模	メインアリーナ	・バスケットボールコート3面以上とする。 ・一定規模の大会利用や競技利用の柔軟性を考慮し、2,400~2,700㎡とする。		約2,200～2,600㎡程度が妥当	
	サブアリーナ	・メインアリーナとは別に、日常利用や大会時のウォーミングアップ等に対応する機能としてサブアリーナを2面確保する。 ・小規模大会で利用しやすい。	大会時においても日常利用を求める声あり		
整備期間中における体育館機能の継続利用		・整備期間中においても、市民利用や大会利用の継続ができるよう、段階整備とする。 →メインとサブは分棟配置とする 現状の利用状況を踏まえると、整備期間中に2面 あることが望ましい。	整備期間中、継続利用を求める声多数 現在と同程度の規模を求める声あり		
アリーナ以外の必要諸室		・現時点では、飲食機能や屋内遊び場等については必須機能とは位置付けず、まずはスポーツ利用を中心とした施設構成を優先する。	飲食、屋内遊び場、ランニングステーション、コワーキングスペースなどのニーズあり		屋内遊び、キッズルーム、トレーニングジム、飲食、ランニングステーションなどが考えられる
構造方式		・コスト面、利用性を考慮しピロティ形式は採用しない方向で検討する。	アリーナを2階にすると、大会運営や移動の不便さが懸念		アリーナを2階にすると、高コストとなる可能性あり、また、利用性の低下の懸念あり
駐車場		・現状と同じ敷地内に70台確保する。 ・河川敷に200~250台確保する。	駐車場拡充を求める声あり	70台程度が妥当	

2．基本計画素案（5）施設規模・配置案

		①案	②案
イメージ			
バスケ面数	メインアリーナ	3面	3面
	サブアリーナ	2面	2面
アリーナ面積	メインアリーナ	約2,400㎡	約2,400㎡
	サブアリーナ	約1,300㎡	約1,300㎡
観客席数	固定席	約1,700席	約1,700席
	仮設席	約1,700席	約1,700席
	合計席数	約3,400席	約3,400席
駐車場		70台（現体育館側に配置）	70台（現公園側に配置）
概算整備費		アリーナ：約113億円、公園：11億円 ※屋上緑化は芝を想定、中高木を想定するとアリーナの整備費は約125億円となる。	アリーナ：約108億円、公園：11億円 ※屋上緑化は芝を想定、中高木を想定するとアリーナの整備費は約115億円となる。
維持管理費（15年2か月）		約26億円	約26億円

※維持管理費は過年度との比較できるよう同じ期間で算出。また、屋上緑化分は増額となる。

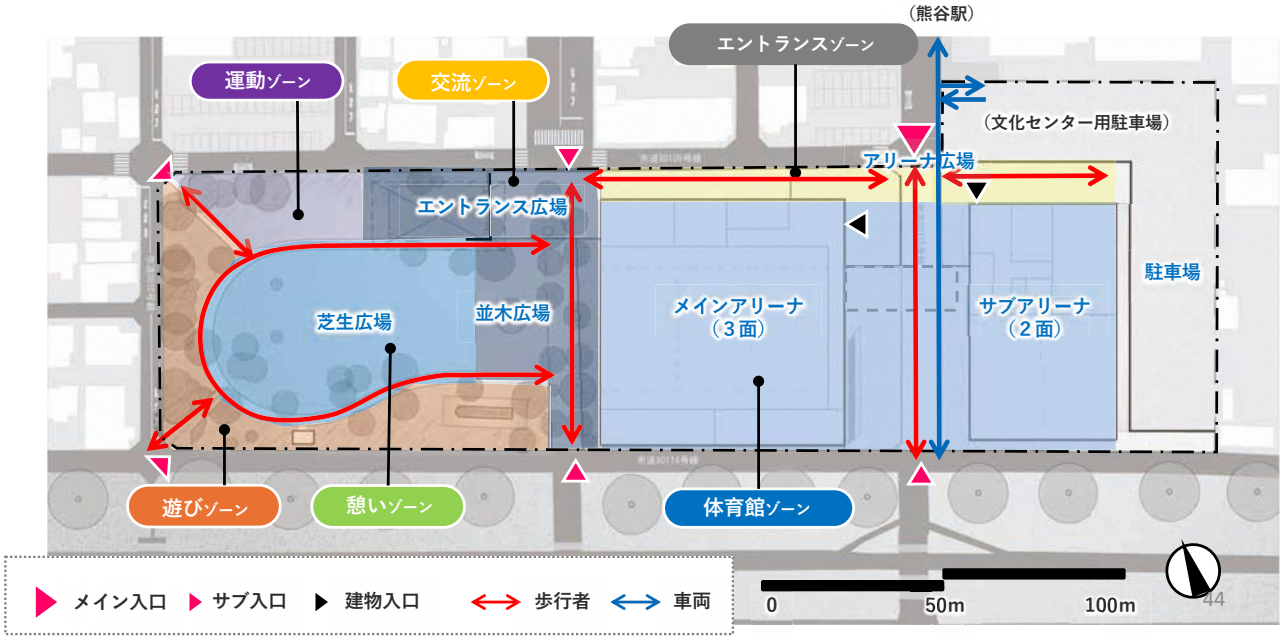
①案

【景観の視点｜駅側からのエントランス性・解放感】
- 駅側に体育館機能を集約し、南エリアにおける体育館を主とした構成
- 公園側の建築ボリュームが大きくなる

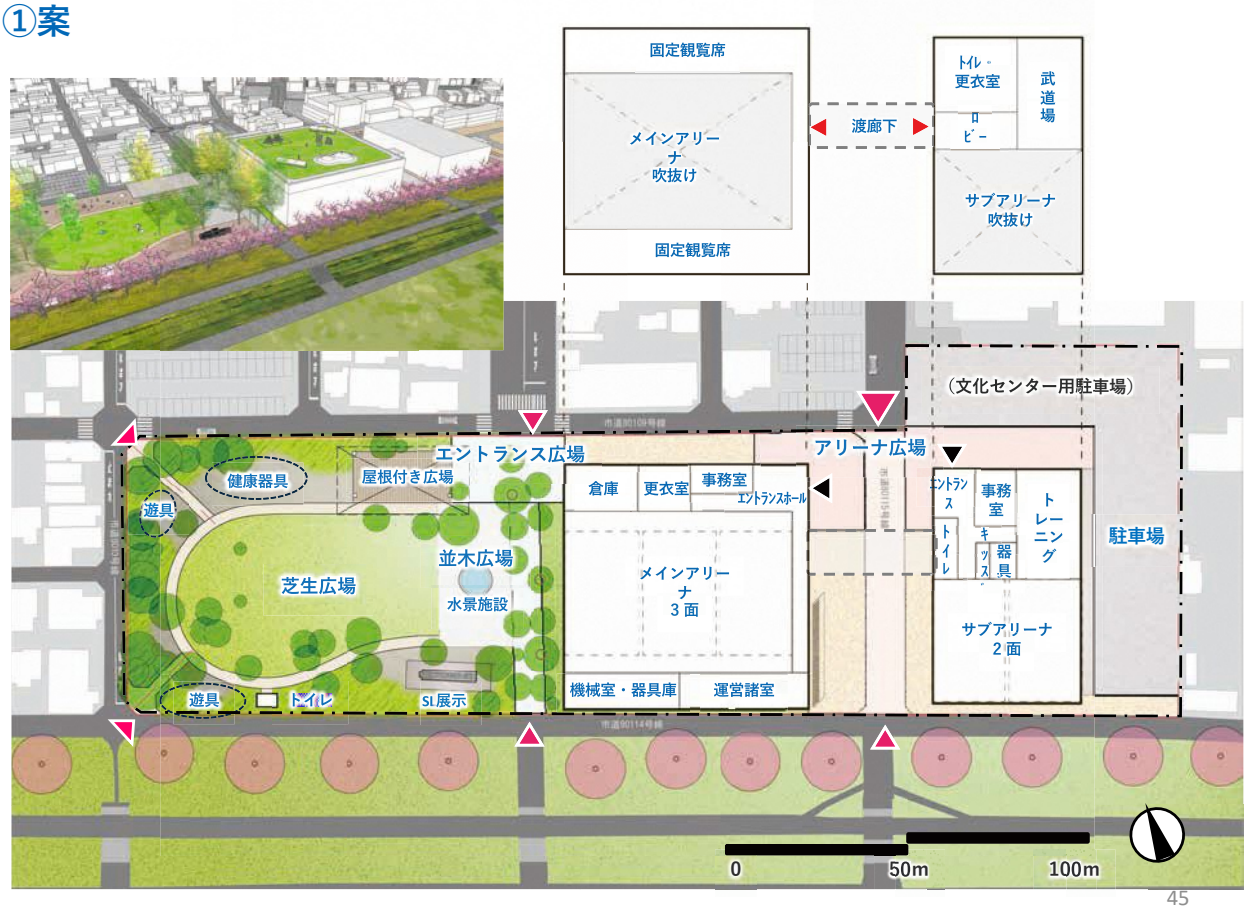
【安全・動線の視点｜歩車分離・利用動線】
- 駐車場が現体育館側に集約され、歩車分離に配慮した構成
- 日常利用を主とするサブアリーナと公園が道路により分断される。

【利用・運営の視点①｜イベント時・大会利用対応】
- 観客席数・アリーナ面積を一定程度確保し、大会利用に対応
- イベント時の滞留・待機空間を確保しやすい構成

【利用・運営の視点②｜日常利用・多様な活動の受け止め】
- 公園と体育館が並木を境に分離し、それぞれの利用の区分が明確
- 競技利用中心のため、活動の重なりは限定的



①案



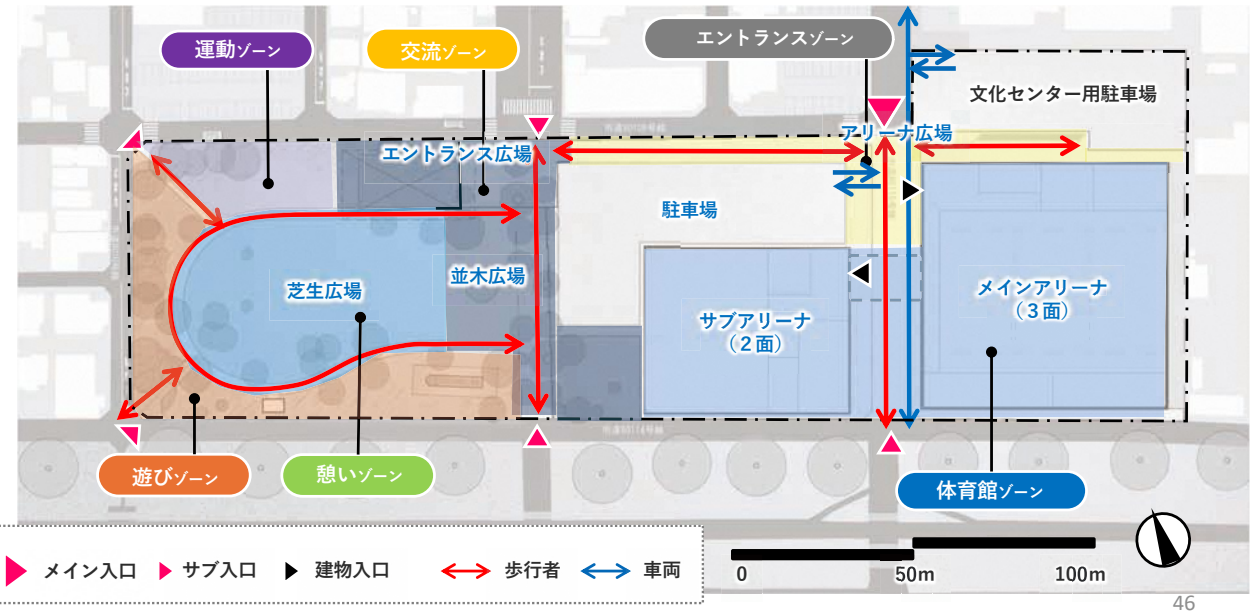
②案

【景観の視点｜駅側からのエントランス性・解放感】
- 駅側から芝生広場への見通しを確保した構成
- メインアリーナを現体育館側に配置し、近隣住宅への圧迫感を軽減

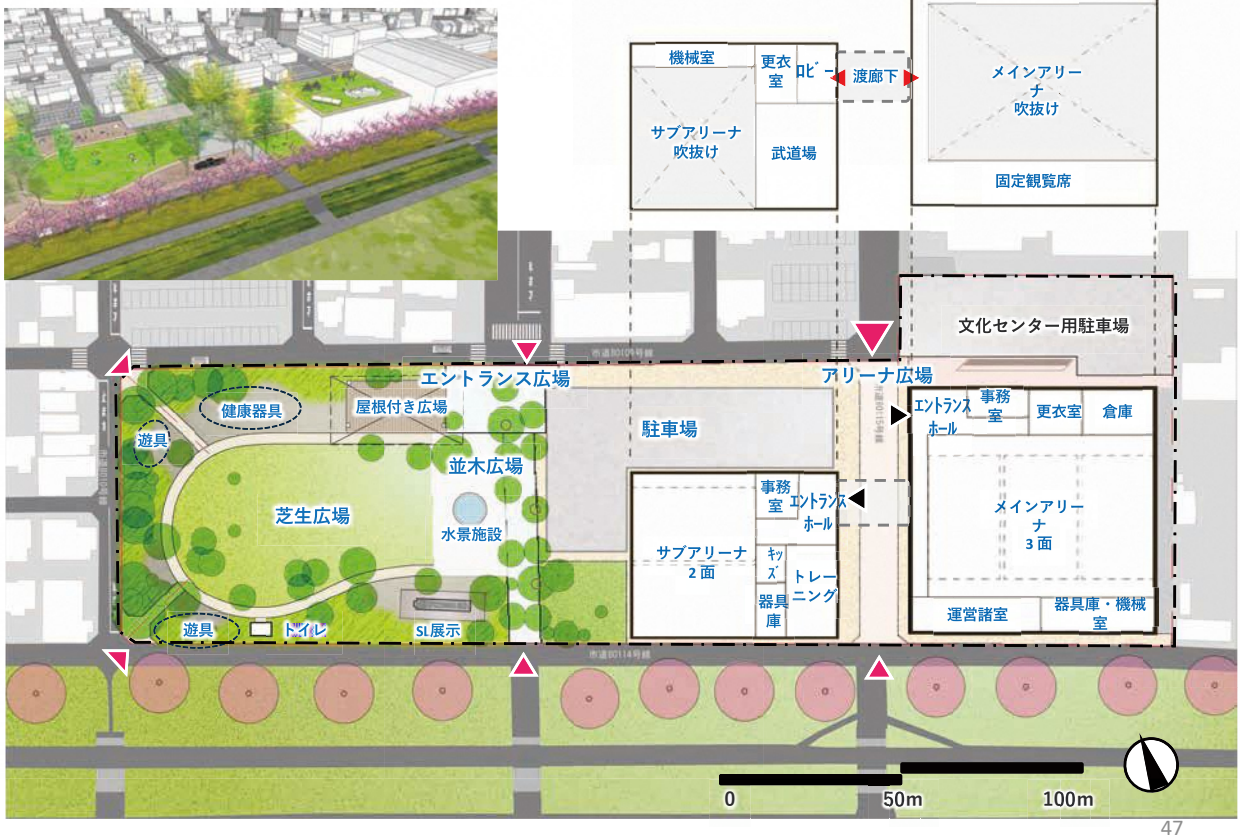
【安全・動線の視点｜歩車分離・利用動線】
- 駐車場で空間が分断されるものの、日常利用を主とするサブアリーナと公園が道路を挟まず直接アプローチできる構成
- 駅側の交差点は、その先に駐車場があるため、車や人が一時的に集中しやすい

【利用・運営の視点①｜イベント時・大会利用対応】
- 観客席数・アリーナ面積を一定程度確保し、大会利用に対応
- メイン入口付近の屋外のたまり空間がやや手狭

【利用・運営の視点②｜日常利用・多様な活動の受け止め】
- 公園側にサブを配置し、公園空間をより広く確保し、多目的利用を受け止め
- 公園とサブアリーナ利用の活動の重なりが期待できる



②案



2．基本計画素案（6）再整備に向けた論点の比較

	論点	市の基本的な考え	①案	②案
効率的・効果的な整備としたい	熊谷駅南エリアの新たな「顔」をつくる	川や駅との空間的・景観的な連続性に加え、人の動線や活動のつながりを創出し、南エリアの新たなシンボルとなる空間形成を目指す	並木道を維持することで市役所通りからの景観の連続性を維持、南エリアにおける体育館を主とした景観を創出	並木道を維持することで市役所通りからの景観の連続性を維持、駅からアプローチした際に公園まで見通せる連続的な景観を創出
	屋外/屋内一体整備の良さを発揮する	公園と体育館が連続した利用環境を形成し、日常的に人が滞在・回遊できる空間を目指す	公園側にメインアリーナ配置となり利用の連携が難しい	サブと公園が隣接しており連携が可能 駐車場により公園と体育館空間が分断されやすい
	「する・ささえるスポーツ」の利用環境を高める	日常利用から大会利用まで幅広いスポーツ利用できる施設を目指す	メイン3面＋サブ2面で屋内機能充実	メイン3面＋サブ2面で屋内機能充実
	「みるスポーツ」で南口に新たな価値を提供する	観戦機能を備えた施設により、交流・にぎわい創出を図る	観戦機能を確保しつつ、運営効率にも配慮	観戦機能を確保しつつ、運営効率にも配慮
	まちの防災性向上に役立てる	物資の備蓄機能を備え、避難時利用を考慮する	公園のオープンスペースを一定確保し、避難動線や屋外待機場所として活用可能	屋外駐車場が公園側にあり、物資拠点、待機場所として活用しやすい
コスト（将来の負担・を減らしたい	再整備は必要か？	老朽化対応に加え、市民ニーズやスポーツ環境向上のため再整備が必要		
	新体育館の適正な規模は？	市民利用と大会利用のバランスを踏まえた適正規模を検討する	メイン3面＋サブ2面で充実した規模	メイン3面＋サブ2面で充実した規模
	将来にわたってかかるコストは？	整備費だけでなく維持管理費も含めた検討が必要	P27参照	P27参照
良好な住環境を守りたい	現公園の緑や広場の良さが失われないか？	現公園の緑や広場機能をできる限り維持する	住宅に近接した部分の建築ボリュームが比較的大きい 屋上緑化により緑地を確保	公園東側は建物と駐車場が占める 屋上緑化により緑地を確保
	再整備により環境が悪化しないか？	圧迫感や騒音、周辺環境への影響低減に配慮する	交通渋滞、騒音に対する懸念はない、建物規模が大きく、住宅への圧迫感に対する配慮が必要	交通渋滞、騒音に対する懸念はない

2．基本計画素案（6）再整備に向けた論点の比較

	論点	視点	①案	②案
効率的・効果的な整備としたい	熊谷駅南エリアの新たな「顔」をつくる	駅からの視点	 体育館の存在感を強調	 芝生広場への見通しを確保
		市役所通りからの視点	 既存の並木道を活かしつつ、体育館の存在感が感じられる景観	 並木の両側の開放性を確保し、並木道を強調した景観
良好な住環境を守りたい	現公園の緑や広場の良さが失われないか？ 再整備により環境が悪化しないか？	鳥瞰図	 並木より東側が全面建物となり、並木より東側の公園のオープンスペースは減少、屋上に緑地を確保 体育館（メインアリーナ）により住宅への圧迫感が生じる	 並木より東側が建物と駐車場となり、並木より東側の公園のオープンスペース減少、屋上に緑地を確保 住宅の前面道路が駐車場への車両動線となる

2．基本計画素案
（7）参考事例：公園と建物との連携について

大牟田市総合体育館（おおむたアリーナ）

熊谷での参考ポイント：施設の周りに公園の延長として使える「緑側」のような場所ができるとしたら？
テーマ：公園の景観を活かし、緑とアクティビティが溶け込む
特徴：大きなテラスを配置し、公園を眺めながら休憩できる。ガラス張りの外観で、外の散歩道から中のスポーツ活動が見える「開かれた」アリーナ。





所在地	大牟田市宝坂町二丁目92番地
開館	令和6（2024）年
構造	鉄骨造 2階建て
延床面積	約10,000㎡

基本コンセプト
「スポーツや運動を通じてひとを健康に、まちを元気にする緑に囲まれた総合体育館」
主な諸室・設備
アリーナ（約1713m2）、多目的ホール（約1284m2）、会議室1～9、相談室、柔道場、剣道場1～2、、キッズルーム、トレーニング室、談話コーナー、卓球室、アリーナ観客席1524名（仮設席最大1500名）、器具庫、多目的ホール観客席226名、防災備蓄庫

17

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

熊谷での参考ポイント：施設の屋根やテラスを、公園の一部として遊べる場所にできないか？
テーマ：建物全体が「立体的な公園」。空間の境界をなくす
特徴：建物全体にCASCADE（滝）のようなテラスやベランダがあり、風や緑を感じる「外（公園）のような中」を実現。図書館、ホール、子育て支援など、異なる機能がテラスや外階段を通じて立体的に繋がっている



所在地	大阪府茨木市駅前三丁目9番45号
開館	令和4（2023）年
構造	鉄骨コンクリート造（一部鉄骨造）
延床面積	19,715.22平米

主な機能（施設）
市民活動センター、コワーキングスペース、市民交流スペース、きたしんプラネタリウム、屋上広場、交流ホワイエ、会議室、和室、図書館、ゴウダホール、こども支援センター、多目的室、カフェなど

18

緑と語らいの広場　えにあす

熊谷での参考ポイント：施設に、どんな公共・民間機能を混ぜれば、多世代が毎日来るようになる？
テーマ：異なる機能が「まざる」ことで賑わいを生む複合施設
特徴：民間フィットネス、図書館、子育て支援が一つに。運動のついでに本を読んだり、子どもを遊ばせたりすることが可能。隣接する公園と連携したイベントも盛ん。



所在地	恵庭市緑町2丁目1番1号
開館	平成30（2018）年
構造	鉄骨造地上2階建
延床面積	約3,800m2

特徴・コンセプト：
「市民のサードプレイスを創る（民間×公共の融合）」

主な機能（施設）
市民活動センター、保険センター、夜間・休日急病診療所、図書館　恵庭分館、子育て支援センター、学童クラブ、こどもひろば、ラジオ局、スポーツクラブ、コンビニエンスストア

19

3．3つの価値から見た各案　①案

①将来を担う、熊谷のこどものための場にしよう

②地域が一体になり、まちの資源や取り組みとの相乗効果を生み出す場にしよう

③自然災害、酷暑、防犯などの地域課題の解決につながる場にしよう

①案



※駐車場面積は除く

比較案	オープンスペース面積
現状	約13,300㎡
過年度計画	約10,800㎡
①案	約14,800㎡ (内屋上面積：4,900㎡)

3．3つの価値から見た各案　②案

①将来を担う、熊谷のこどものための場にしよう

②地域が一体になり、まちの資源や取り組みとの相乗効果を生み出す場にしよう

③自然災害、酷暑、防犯などの地域課題の解決につながる場にしよう

②案



※駐車場面積は除く

比較案	オープンスペース面積
現状	約13,300㎡
過年度計画	約10,800㎡
②案	約12,400㎡ (内屋上面積：2,500㎡)

（参考）過年度のモデルプラン

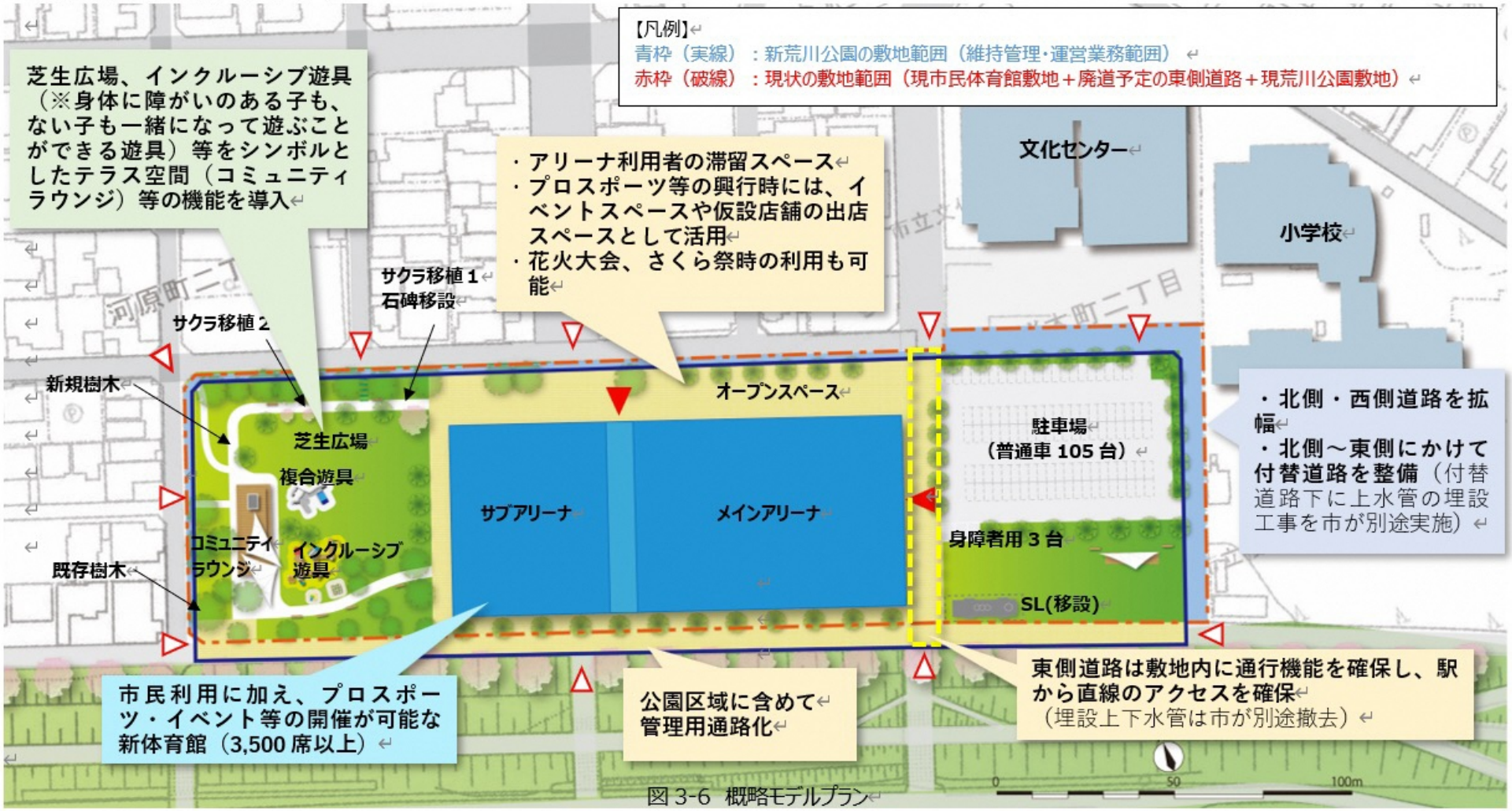


図 3-6 概略モデルプラン